令和元年９月２５日

保護者の皆様

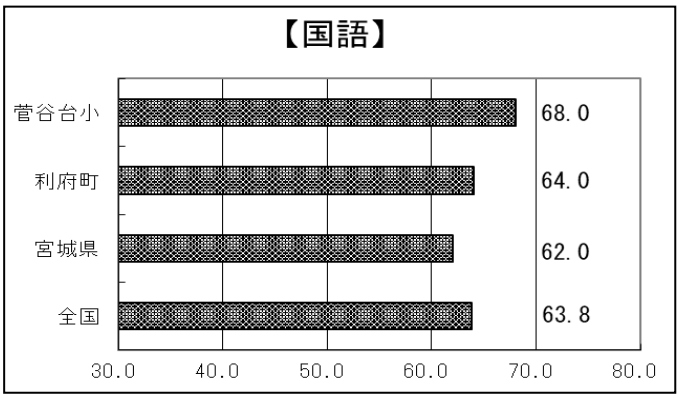
利府町立菅谷台小学校
校長　内海　喜久子

令和元年度　全国学力・学習状況調査の結果とこれからの取組

今年の４月１８日（木）に，全国の公立小学校に通う６年生を対象に，「全国学力・学習状況調査」が行われ，その結果が各校に７月下旬に届きました。これに基づいて，この度，本校の児童の学習や生活の状況について，よさや課題についてまとめましたので，お知らせいたします。

１　学力調査の結果

【国　語】　平均正答率％

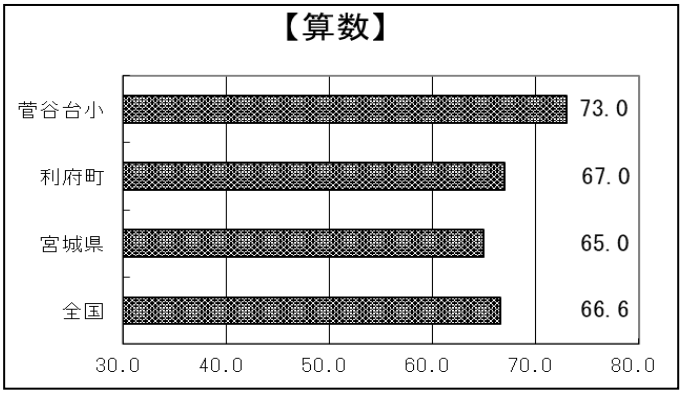


・国語については，全国の平均正答率を 4.2 ポイント上回っており，基礎・基本，活用力が確実に身に付いていることが分かります。
・「話すこと・聞くこと」の項目では，全国の平均正答率を 10.1 ポイント，「読むこと」の項目では，全国の平均正答率を 6.8 ポイント上回りました。
・「言語についての知識・理解・技能」の項目では，全国の平均正答率を 0.4 ポイント下回り，課題があることが分かりました。

具体的な学習状況（◎よくできていた点　●課題としてあげられる点）

◎目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読む問題の正答率が高くなっていました。
◎話し手の意図を捉えながら聞き，自分の考えをまとめる問題の正答率が高くなっていました。
●学年漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題（「対象」「関心」）に課題が見られました。
●文と文との意味のつながりを考えながら，接続語を使って内容を分けて書く（一文を二文に分けて書き直す）問題に課題が見られました。

【算　数】　平均正答率％



・算数については，全国の平均正答率を 6.4 ポイント上回っており，基礎・基本，活用力が確実に身に付いていることが分かります。
・「数学的な考え方」の項目では，全国の平均正答率を 8.9 ポイント，「数量や図形についての技能」の項目では，全国の平均正答率を 3.2 ポイント，「数量や図形についての知識・理解」の項目では，全国の平均正答率を 4.4 ポイント上回るなど，全ての項目で全国の平均正答率を上回りました。

具体的な学習状況（◎よくできていた点　●課題としてあげられる点）

◎示された図形の求め方を解釈し，その求め方の説明を記述する問題の正答率が高くなっていました。
◎資料の特徴や傾向を関連付けて，一人当たりの水の使用量の増減を判断し，その理由を記述する問題の正答率が高くなっていました。
◎図形の性質や構成要素に着目し，ほかの図形を構成する問題の正答率が高くなっていました。
●加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題に課題が見られました。

２　今後の取組について

(1)　国語

○　漢字の書き取りの学習においては，熟語や短文作り等を取り入れながら，文章の意味に合った漢字を使えるように指導していきます。また，どの教科においても既習の漢字を使って文章を書くように意識させながら定着を図ります。

○　物語や説明文の学習において，段落と段落の関係や，文と文の関係を読み取る際に，接続語を意識した学習を取り入れていきます。また，接続語を使って一文を二文にしたり，二文を一文にしたりする活動を通して，接続語の使い方の定着を図ります。

(2)　算数

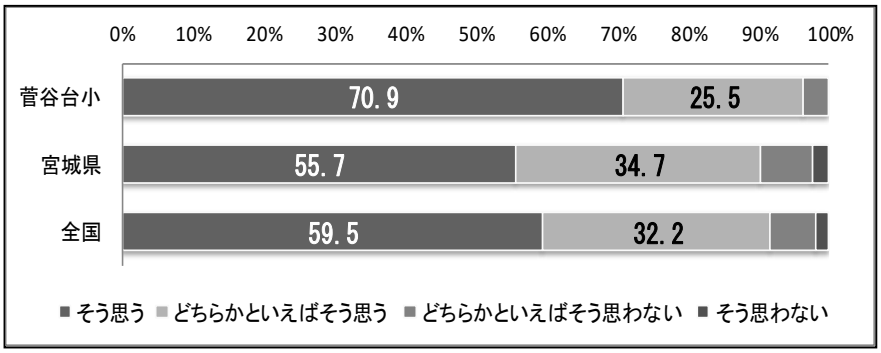
○　授業の中で，四則（加法・減法・乗法・除法）を判断する文章問題や，計算問題に取り組ませ，計算能力の伸長を図ります。

○　家庭学習やのびのびタイム（放課後補充学習）を活用し，更に四則計算が混じった問題に取り組ませ定着を図ります。

３　学習状況調査の結果

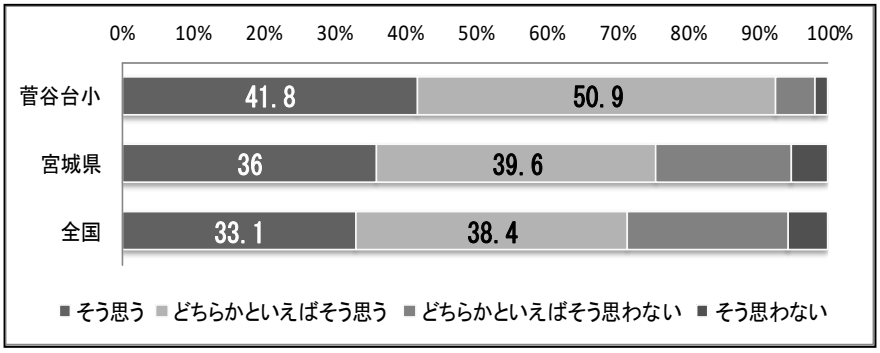
(1)　よい傾向が見られる項目（数値は％ですが，項目によってC，D評価の数値表記を省略しているものがあります）

①　先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれていると思いますか。



全国平均に比べ，「そう思う」と回答している児童の割合が 11.4 ポイント高くなっています。児童の「分かりたい」という前向きな姿勢に，授業中における個別指導やのびのびタイム（放課後補充学習）が効果的に対応していると考えています。今後も継続して取り組んでいきます。

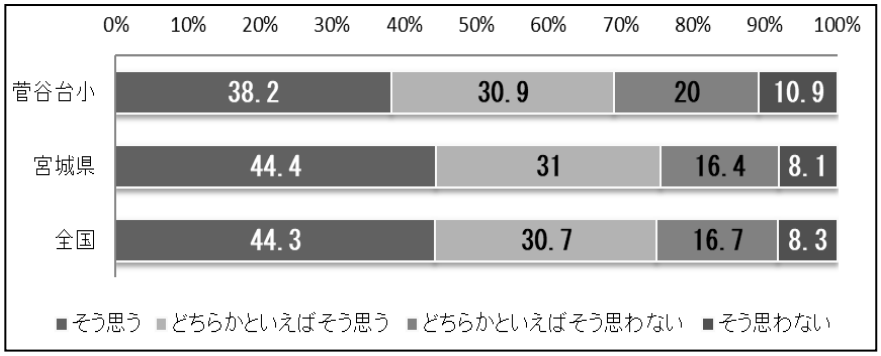
②　家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



全国平均に比べ，「そう思う」と回答している児童の割合が 8.7 ポイント高くなっています。家庭での学習時間が確保されていること，児童自身が学習の課題を設定しながら取り組んでいることが分かります。引き続き，「学年×１０分以上」を基本とし，家庭学習の充実を図っていきます。

(2)　改善が必要と思われる項目

①　読書は好きですか。



全国平均に比べ，「そう思う」と回答している児童の割合が 6.1 ポイント低くなっています。本は，活字に触れながらたくさんの知識や感動を与えてくれる大切な教科書です。

今後も，読書タイムの活用や本に触れる機会の工夫，児童が読んでみたい本の選定など，読書活動の充実を図ります。